

教育目標		豊かな心 すこやかな体 人とかかわる力 ー自然いっぱい、笑顔いっぱい みんなのせつよう幼稚園ー						
重点目標		1・豊かな心もち、すこやかな体・人とかかわる力を育てる保育を推進する			2・地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標の達成に向け、36ヶ月を見通した指導のポイントを入れた教育課程の見直しをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の中の環境構成や教師の援助を、今年度の幼児の姿や保育実践から見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程を見直し、今年度の保育実践を反映させる。</li> <li>保護者アンケートにおいて「お子様は自然とかかわって遊ぶことが好きである。」「お子様は友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。」と回答した割合が共に85%以上になる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の見直しをする時間をもつことはできなかったが、幼児の実態や課題などを毎日話し、職員間で情報の共有を行うことができた。</li> <li>共有した情報を教育課程につなげていくことが、今後必要である。</li> <li>昨年度に引き続き、保護者アンケートにおいて「お子様は自然とかかわって遊ぶことが好きである。」「お子様は友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。」と回答した割合がそれぞれ97%、100%になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度に向けて、教育課程の内容(3歳児、2年保育4歳児)を職員間で話し合い、見直しをすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年保育の幼児の実態に即した教育課程の見直しが求められる。</li> </ul>
	保育指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育力の向上と保育の改善を目指した研修を実施する。</li> <li>研究テーマ「幼児期と児童期の学びをつなげる幼小の接続カリキュラムの作成」を視点とし、遊び込む子どもを育てる保育を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回園内研究会を行う。</li> <li>園内研究会を行い、講師を招聘し、研究協議を重ね、保育実践力の向上に努める。</li> <li>保育実践を通して子どもの学びを捉え、幼小接続カリキュラムを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の実態や課題、年齢、発達段階に応じた保育について検討し、職員全員で共通理解を図る。</li> <li>学期に1回程度園内研究会を実施し、研究テーマに基づき遊び込む子どもを育てる保育であったかを検証する。</li> <li>保護者アンケートにおいて「お子様は自ら環境にかかわり遊び込むことができているか」「幼稚園は、教師が協力して教育活動にあたり、保護者の願いに応えている」と回答した割合が85%以上になる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に幼児の実態や課題についての共通理解を図ることができた。しかし、年齢や実態に応じた保育について、教育課程とも合わせてもう少し検討が必要である。</li> <li>学期に1回以上園内研究会を実施することができた。遊び込む子どもの姿やそれにつながる具体的な保育について、共通理解や再検討が必要である。</li> <li>保護者アンケートにおいて「お子様は自ら環境にかかわり遊び込むことができているか」「幼稚園は、教師が協力して教育活動にあたり、保護者の願いに応えている」と回答した割合がそれぞれ98%、100%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳児や2年目の4歳児保育について、教育課程とも照らし合わせながら、実態や発達年齢に応じた保育について見直しや検討を行う。</li> <li>日頃の職員会や園内研究会などを通して、研究テーマにつながる具体的な保育についての共通理解を図る。</li> <li>引き続き保護者アンケートでの「お子様は自ら環境にかかわり遊び込むことができているか」「幼稚園は、教師が協力して教育活動にあたり、保護者の願いに応えている」と回答が90%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き幼児の実態に応じた保育活動を職員との連携のもとと展開するとともに、幼小接続の実践のまとめを進めて欲しい。</li> </ul>
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの幼児にもわかりやすい環境構成や教師の援助(保育のユニバーサルデザイン化)に努める。</li> <li>個別指導計画の目標を達成するために保育内容や支援方法を検討し実践する。</li> <li>拠点園として、インクルーシブ教育・保育の推進・発信をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの幼児にとってもわかりやすい環境構成、保育内容、指示の出し方を工夫した保育を実践する。</li> <li>個別指導計画の中の優先順位が高い項目について全職員で共通理解し、目標を達成するための保育内容や支援について話し合い、その子に応じた支援を実践する。</li> <li>拠点園として、通級指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回、短期案の中に、どの幼児にとってもわかりやすい保育についての、具体的な保育内容、援助、環境について記述し、話し合いの中で情報交換する。</li> <li>個別指導計画の中で、優先順位の高い項目について目標達成のための保育内容や支援について、短期案の中に具体的に示す。</li> <li>通級指導(にじいろ広場)を6回、実施する。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期案の中に支援を必要とする幼児の実態を記述し、情報交換をすることができた。</li> <li>個別支援計画の中に優先順位を示すことはできた。しかし、それにそった具体的な支援を短期案の中に示すことは難しかった。</li> <li>4歳児、5歳児は2学期から、通級指導(にじいろ広場)を6回、実施した。</li> <li>3歳児は、3学期に2回、通級指導(にじいろ広場)を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期案の中に、個別指導計画の中の優先順位を意識して、支援方法を考えていく。</li> <li>4、5歳児は1学期から、10回程度、3歳児は2学期後半から、通級指導(にじいろ広場)を4回程度実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自園の取り組みを引き続き推進しつつ、拠点園としての今年度の課題に是非取り組んで欲しい。</li> </ul>
豊かな心・健やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほげんの話や「けんこうカレンダー」を活用し、基本的な生活習慣の形成を図る。</li> <li>手洗い、うがいを徹底させ、直接触れるものは消毒をする。</li> <li>子どもが自ら体を動かしたくなるような環境構成や援助について話し合い、継続して意欲的に運動遊びができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回ほげんの話をする時間を設けると共に「けんこうカレンダー」を活用し、親子で取り組む機会を持つ。</li> <li>衛生環境に努め感染症のリスクを減少させる。</li> <li>保護者アンケートにおいて「お子様は外遊びや身体を積極的に動かすことが好きである」と回答した割合が85%以上にする。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回のほげんの話と「けんこうカレンダー」の取り組みを通して家庭で生活習慣について話し合う機会ができた。</li> <li>年間を通して、弁当時、手洗いうがい及び排泄時をはじめとし、密を避ける環境作りや、アルコール消毒の等衛生管理に努めた。</li> <li>保護者アンケートでは100%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健指導の取り組みから、必要な幼児はさらに個別で生活習慣の見直しを指導する。</li> <li>引き続き、市のガイドラインに基づき、感染症対策を講じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に3歳児に対しては保護者との連携、啓発を大事に今後もきめ細やかな指導が必要である。</li> </ul>	

開かれ信頼できる園	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルに沿った避難訓練の実施</li> <li>個人情報の保護・管理の徹底</li> <li>安全に活動できる環境の整備・管理の遂行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災、地震、防犯等あらゆる災害を想定し避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。</li> <li>個人情報の管理及び一斉メール配信システムの構築と危機管理意識の向上を図る。</li> <li>3歳児を含め幼児が安全且つ教育的に過ごせるように保護者とともに、環境整備に努める。</li> <li>天災、季候変動に関する情報を敏感に察知し、安全安心を守る意識改革を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の避難訓練と引き渡し訓練を実施する。</li> <li>個人情報の取り扱いについて書面で確認する。</li> <li>一斉メールの活用を実施する。</li> <li>PTAのひまわりグループ活動を年間9回、その他必要時に数回程度の清掃週を計画実施する。</li> <li>保護者アンケートにおいて、「幼稚園は子どもの生活や遊びの場としての環境を整えている」と回答した割合が85%以上になる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練では、あらゆる災害に対応できるように計画・実施できた。3歳児も含め幼児の意識向上につながった。</li> <li>コロナ感染症対策を、常に最善を考え実施してきた。</li> <li>個人情報の取り扱いについては、年度当初に保護者と書面にて確認し、意識向上及び保護に努めた。</li> <li>一斉メールの活用は必要に応じて実施した。</li> <li>ひまわり活動については、コロナ禍において、グループを組み分散して実施することができた。</li> <li>アンケート結果では、100%の肯定的な回答を得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳児の安全管理の観点から、防災について職員の意識改革・見直しを継続する</li> <li>コロナ禍において、感染症対策を社会情勢や県市の方針の下実施する。</li> <li>環境整備は、PTA、ボランティアの方、自治協など協力を得て進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳児を含めたの安全対策とコロナ感染対策、どちらも適切であった。</li> </ul>
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の子育て支援センター的役割や機能を充実させる。</li> <li>積極的に園の教育活動について情報を発信する。</li> <li>小学校との連携・交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放を実施し、子育て相談に応じる。</li> <li>預かり保育を実施する。</li> <li>未就園児交流「ちびっこ交流会」を、計画・実施する。</li> <li>ホームページを月に4回以上更新し幼稚園の様子を発信する。</li> <li>クラスだより、園だよりの発行や掲示板等を活用し、本園教育の発信に努める。</li> <li>教師間連携と幼児・児童の交流を計画・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の園庭開放を実施する。</li> <li>預かり保育を行う。</li> <li>未就園児交流「ちびっこ交流会」を地域に広く呼びかけ、年間6回実施する。</li> <li>ホームページを月4回以上更新する。</li> <li>クラスだよりを月1回発行する。また、園だより等を定期的に発行したり、各クラス、ドキュメンテーションを掲示したりして本園の教育について発信する。</li> <li>摂陽小学校校内研究会及び研究会への積極的な参加及び園内研究会への参加呼びかけをする。</li> <li>幼児・児童の交流活動について計画・実施の充実を図り、これまでの実践を基に接続カリキュラム素案を作成する。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児親子の交流会「ちびっこ交流会」は、年間6回実施した。参加者が延べ36組あった。</li> <li>ホームページは、ほぼ毎月6回以上更新することができた。</li> <li>年間を通して各クラス掲示板にドキュメンテーションの掲示を行い、園児の様子、園の教育活動について発信することができた。</li> <li>摂陽小学校の校内研究会への参加は、積極的に行った。また2月には幼稚園・小学校の合同研修会を摂陽小学校にて開催し、幼小接続について考え合う機会をもつことができた。</li> <li>幼児・児童の交流についても昨年度の実践をもとに充実をはかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前施設Fブロック拠点園として、研究、幼小接続、特別支援教育等の取り組みの発信に努める。</li> <li>幼小接続においては、これまでの交流活動等をまとめ、幼小接続カリキュラムを完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼小の学びの連続性、なめらかな接続は大切だ。園児だけでなく保護者の安心感にもつながる。継続してきた取り組みを積極的に発信してほしい。</li> </ul>
おける人権教育の推進	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども、保護者の人権教育の推進</li> <li>教師自身の人権感覚を磨く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と関わる中で、相手や自分を大切にしたり、思いやりの気持ちを育んだりする。また、命を大切にしようとする気持ちを養う。</li> <li>教師も、積極的に研修会に参加するとともに、保護者にも参加を呼びかけたり人権懇談会を開いたり等、家庭に人権教育の大切さを啓発していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の頑張る過程や、ありのままの姿を認めることで、自尊心を育み、相手の気持ちを考えたり、自分の行動を振り返ったりする機会をつくる。</li> <li>保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で、自分を大切にすることや、友達との関わり方、他への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。</li> <li>教師が積極的に研修会に参加したり、クラス懇談会の中に人権に触れた内容を取り入れられたりし、保護者への啓発に努める。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はコロナの影響で研修会をもつことができなかった。しかし、夏休みに全職員で人権について考える時間をもったり、保護者には、人権作文から感想を出してもらい、回収率も良かった。</li> <li>保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で、自分を大切にすることや、友達との関わり方、他への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が80%以上になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度以降、研修や学級懇談会をもつ中で、職員や保護者の啓発を行い、人権について考える機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も一人一人の思いが尊重される保育を進めてほしい。</li> </ul>

学校関係者総括

・コロナ禍の中、初の3歳児を多数受け入れ、教育、衛生対策、安全対策、事故防止策等、適切になされていた。今後も子供にとってよりよい環境作りに努められたい。

次年度に向けた重点的な改善点

・本園の拠点園としての役割を、今年度の取り組みを踏まえて推進するとともに、南西部こども園へと引き継ぐことが出来るよう取り組みをまとめ発信していく。